

## 『虞美人草』小野さんという名字

*Junko Higasa 2013.11.19*

「京都市山科区小野」という地名がある。そこは音羽山、醍醐山、東山などに囲まれた盆地で、北部に天智天皇陵、南部に真言宗寺院を抱える、京都と東国を結ぶ要衝である。

山で囲まれた盆地というのは日陰である。それはまるで身分の高い者の膝元の「暗いところで生まれた」小野さんのようである。そして天智天皇といえは皇位継承問題。指名した弟の大海人皇子が暗殺の危険を察知して吉野に逃れたため、息子の大友皇子に譲位したが、「壬申の乱」が起って大友皇子は敗れ、大海人皇子が天武天皇を名乗り、律令国家が成立。その律令制の下では防人の負担が生じ、それは桓武天皇の平安時代まで続く。桓武天皇は地方の質的軍団・兵士を廃止したが、朝廷は国土防衛のために量的人員を確保し、防人廃止を先送りした。その桓武天皇の時代には天台宗と共に、真言宗が広まる。さらに「要衝」とは交通・軍事上、重要な地点である。

「東国」は防人を出す関東地方一即ち京都から東京へ出た小野さんは平安時代の律令制度下の軍事制度の防人である。実際に小野さんは銀時計をもらい、いずれ博士となって金時計を得るだろう国益のための兵士である。宗近君は外交官になり国家戦略の準備を進めるために外国へ飛び出していく役。小野さんは桓武天皇の子孫の藤尾の家を守り、国土を守る役。ここまで考えると『虞美人草』は恐ろしく深い。